

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 9 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(A) ( 一般 )

研究期間：2018 ~ 2022

課題番号：18H03612

研究課題名 ( 和文 ) 法的判断の構造とモデル化の探求：AIはリーガル・マインドを持てるか？

研究課題名 ( 英文 ) Modeling the Legal Decision-Making: AI and Legal Mind

研究代表者

太田 勝造 ( OTA, Shozo )

明治大学・法学部・専任教授

研究者番号：40152136

交付決定額 ( 研究期間全体 ) : ( 直接経費 ) 32,800,000 円

研究成果の概要 ( 和文 ) : 法専門家と法の素人にfMRIに入ってもらい、殺人共謀共同正犯事件と日常的事例を判断してもらう実験をした。データ分析によれば、法的判断の際には、認知に関わる部位も、感情に関わる部位も活動していることが明らかとなり、リーガルマインドは、理性対感情という単純な対立では捉えられないことがわかった。反省悔悟をしている被告人の減刑判断において、法専門家は機能連結が少なく、法の素人は多くの機能連結が生じており、苦労して判断していると解釈される。他方、反省悔悟をしていない被告人の増刑判断においては、法の素人は感情による認知へのコントロールが生じ、法専門家では逆に、認知による感情へのコントロールが生じていた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

リーガル・マインドを持つ法専門家の法的判断は古くから議論され、理性中心との主張の方が多数派であったが、それが正確ではなく、法的判断も理性と感情の双方からなる複合的判断であることを脳科学的に明らかにし、従来の議論に科学的解明を与えたことは法学上画期的である。認知・理性関連脳部位と感情関連脳部位間の連結性の方向が、反省悔悟のない悪い被告人の量刑を加重する際に、法の素人は感情部位から認知・理性部位へと向かう連結性が生じるのに対し、法専門家は逆方向で認知・理性が感情をコントロールしているとの知見は、脳科学的に画期的である。成果は法学教育、法曹養成、法実務に大きな影響を与えうるものである。

研究成果の概要 ( 英文 ) : We put legal experts and lay persons into fMRI and have them make decisions on both sentencing decisions and daily matter decisions. The brain-scanned data analysis yield; (A) during the legal decision-makings, both emotion-related brain areas and cognitive/reason-related brain areas are activated. Thus, legal mind is not either rational or emotional, but a mixture of them. (B) During the sentencing decisions for good defendants with remorse, activated brain areas of legal expert are much simpler than those of lay people. Thus, legal expertise means efficient use of brain on legal decision-making. (c) While making sentencing decisions for bad defendants without remorse, we find the direction of connectivity from cognitive/reason-brain area toward emotion-brain area among legal experts, while the direction of the connectivity among lay people are reversed. Thus, legal experts are controlling emotion by reason while lay people are controlling reason by emotion.

研究分野：法社会学

キーワード：法的判断 リーガル・マインド 脳神経科学 Dyanmic Causal Modeling 法専門家と法の素人 法的判断と日常的判断 感情と理性 量刑判断

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

#### 1. 研究開始当初の背景

法学分野と、脳神経科学分野を横断する共同研究は世界的にもほとんど見当たらない状況であった。fMRI の撮像データを分析できる脳神経科学者と、法学専門の研究者の共同研究自体が日本には全く存在しなかった。したがって、リーガル・マインドを持つ法専門家(弁護士・検察官・裁判官)の法的判断の構造を脳神経科学的に解明する研究は日本には皆無であった。

#### 2. 研究の目的

文理融合の学際的研究として、法学分野と脳神経科学分野を横断する研究として、リーガル・マインドとは何か、を明らかにすることが目的である。そのために、まず、法的判断における脳機能と日常的判断における脳機能との異同を明らかにする。さらに、法専門家と法の素人の法的判断における脳機能の異同を明らかにする。

#### 3. 研究の方法

法専門家と法の素人に fMRI (機能的磁気共鳴画像装置)の中で法的判断(量刑)と非法的日常的判断をしてもらい、その間、脳の撮像を継続して脳画像データを取得する。

実験参加者は、法専門家として司法試験合格者 30 名(内女性 8 名)、法律家(弁護士) 8 名(内女性 3 名)、であり、法の素人として、法学を学んでいない学部生 28 名(内女性 9 名)である。

法的判断としては、2 名の被告人が共謀して、強盗殺人を犯した事例を 5 事例作成し、対照実験として日常的判断事例を 5 事例作成する。事例のシナリオを読んで、実験参加者に量刑判断をしてもらおう。その上で共謀共同正犯のうちの一は反省悔悟をしていることを示して、実験参加者に量刑判断をしてもらおう。もう一人の被告人は反省悔悟の欠片も示していないことを示して、実験参加者に量刑判断をしてもらおう。なお、反省悔悟のある良い被告人と反省悔悟の欠落した悪い被告人の提示順序はランダム化した上で実施する。量刑の程度については 0~100 の数値で回答(レーティング)してもらおう。なお、0 が最も軽い刑、100 が最も重い刑として判断してもらおう。日常的判断についても、fMRI の中で判断をしてもらおう。事例としてはコーヒーの温度の判断などである。

法的判断の際の法専門家の脳の賦活部位と、法の素人の脳の賦活部位を比較するとともに、脳の賦活部位の連結性とその方向性について統計学的に分析する。

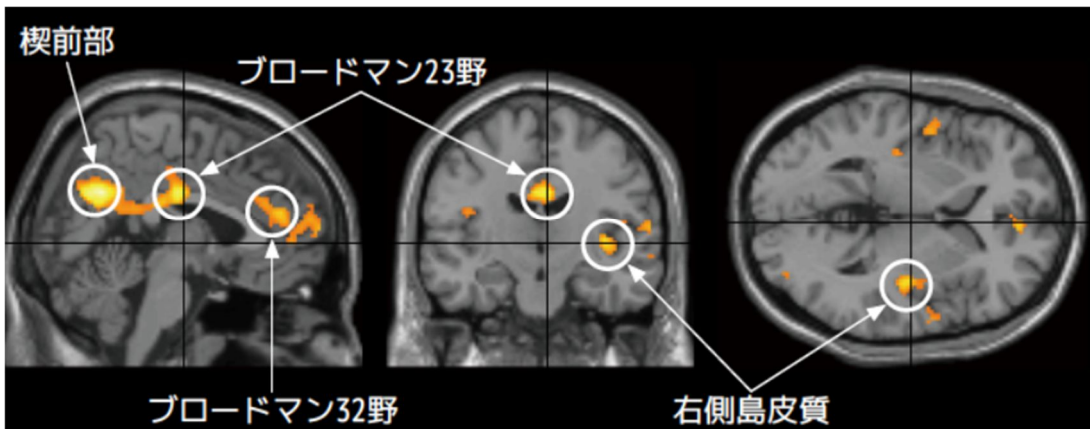
同じ事案を用いて、社会実験(フィールド実験)の手法も併用して、一般人の法的判断を調査研究する。リスク選好や、法意識などについての質問票調査も実験参加者に実施してもらおうとともに、一般人に対してもコントロールとして実施する。

以上の複合的手法を駆使して、リーガル・マインドの本質に迫る。

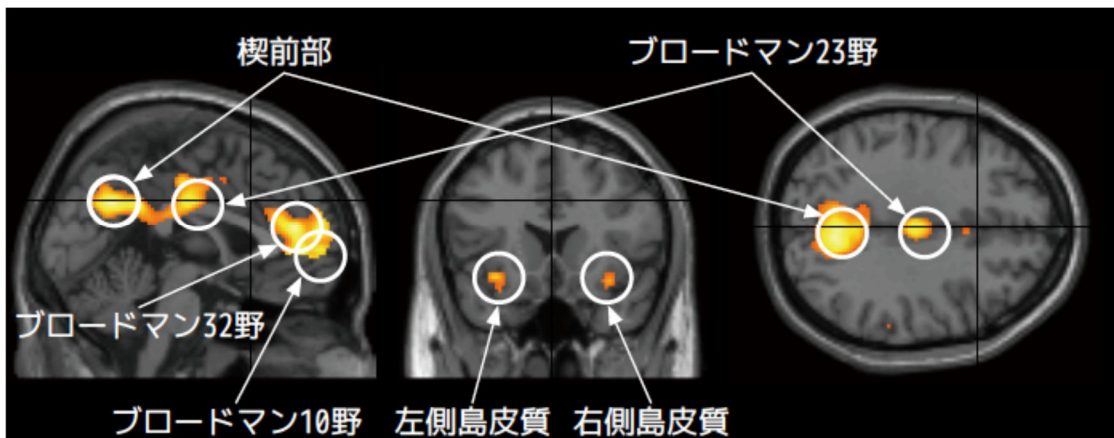
#### 4. 研究成果

(1) 量刑判断の傾向は法専門家も法の素人も同じであった。すなわち、反省悔悟が有る被告人に対しては、反省悔悟情報を与えられる前よりも減刑する傾向が有意である(情状酌量)。これはすべての犯罪事例で同様である。

脳の賦活部位も法専門家と法の素人とで同じである。すなわち、認知判断に関わる部位と感情をつかさどる部位の双方が賦活する点で、同様である。反省悔悟をしている被告人の刑をどれだけ減らすか、を考えている際の脳の活動部位を示す下図を参照。



このように認知コントロール・理性に関わる部位であるブロードマン野(以下, BA と略す)である BA32 と BA10 が賦活するとともに, 感情をつかさどる部位である島皮質も賦活している。  
反省悔悟をしていない被告人の刑をどれだけ増やすか, を考えている際の脳の賦活部位を示すのが以下である。

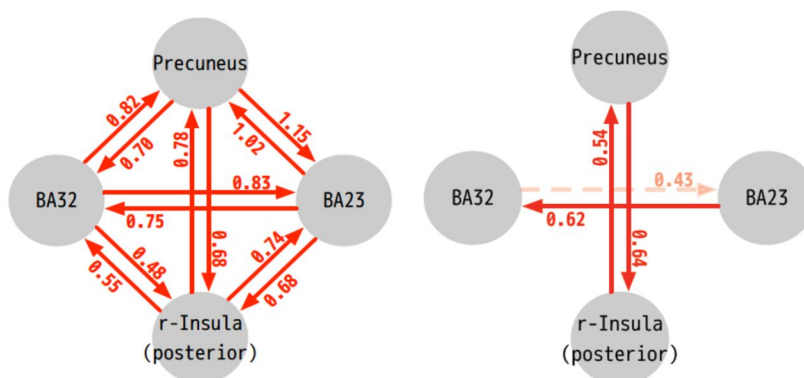


このように, 同様に, 認知コントロール・理性に関わる部位である前頭前野, すなわちブロードマン野(以下, BA と略す)である BA32 と BA10 が賦活するとともに, 感情をつかさどる部位である島皮質も賦活している。

以上から, 法専門家も法の素人も両者とも, 量刑判断には, 認知判断・理性を司る脳部位とともに感情を司る脳部位の双方が法的判断(量刑判断)に関わっていることが脳神経科学的に明らかになる。

(2)他方, 賦活部位の間の連結性について分析すると法専門家と法の素人の間の違いが見えてくる。

反省悔悟をしている被告人の量刑を, 反省悔悟情報を与えられる前の量刑よりも減刑する判断をしているとき, すなわち情状酌量による減刑判断をしている際の脳の賦活部位を取り出してそれらの間の連結性を分析した模式図が下記である。



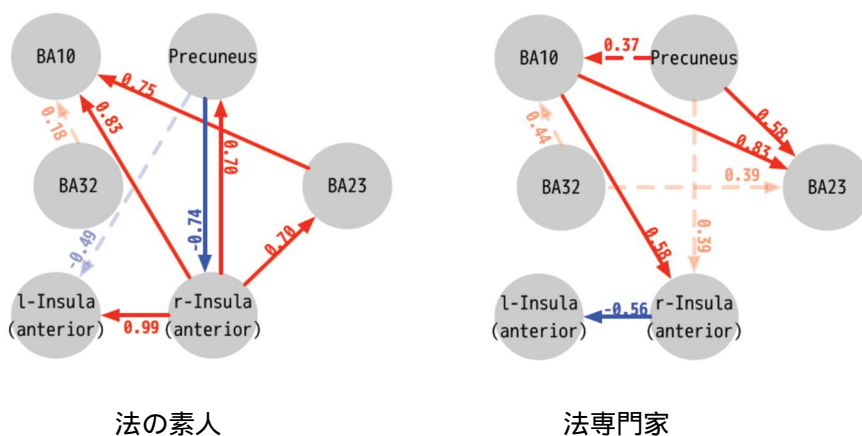
図の左側が法の素人の賦活部位間の連結性とその方向であり、右側が法専門家の賦活部位間の連結性とその方向性である。この図から明らかなように、賦活部位自体は同様の脳部位であるが、法専門家の方が、機能連結が少なくすっきりしている。

解釈としては、専門家は情状酌量の法理に基づいて判断、いわば慣れた判断をしているので、効率的に判断でき、機能連結が少なくて判断できている。これに対し、法の素人は、法に関わる知識がなく、量刑判断の経験も少ないので、判断において、試行錯誤を重ね、機能連結が論理的にあり得る全てで生じていると説明できる。

このように、専門家の方がその専門分野の判断で脳の賦活部位の連結性がシンプルであることは、従前の専門家についての脳研究とも一貫した結果である。

ここで注目に値するのは、認知コントロール・理性に関する前頭前野 (BA32) と感情を司る島皮質の間に法の素人には双方向の連結性が見られるのに対し、法専門家には連結性が見られない点である。法専門家にとって慣れた判断の際には、感情の励起や理性の励起なく判断できているのに対し、法の素人は双方が強く励起され連結されているということである。

(3) 反省悔悟を示していない被告人の量刑を、この情報を与えられる前よりも加重する判断をしているときの脳の賦活部位と連結性とその方向性を示すのが下記である。



図の左側が法の素人の賦活部位間の連結性とその方向であり、右側が法専門家の賦活部位間の連結性とその方向である。この図から明らかなように、法の素人の場合、量刑加重の判断の際に、右島皮質から前頭前野 BA10 へ向かう連結性が見られ、解釈すれば、感情が認知コントロール・理性をコントロールしていると言える。これに対し、法専門家の場合には、逆に、前頭前野 BA10 から右島皮質へ向かう方向の連結性が見られ、解釈すれば、認知コントロールによって感情を制御しようとしていると言える。

また、右と左の島皮質の連結性に注目すると、法専門家では、島皮質内の機能連結が弱まっているのに対し、法の素人では、島皮質内の機能連結、具体的には右島皮質から左島皮質へ向かう連結が強まっている。これを解釈すれば、感情をつかさどる部位の活動が、法の素人の方が活発であることがわかる。

《参考文献》

Takeshi ASAMIZUYA, Hiroharu SAITO, Ryosuke HIGUCHI, Go NARUSE, Shozo OTA, & Junko KATO, "Effective Connectivity and Criminal Sentencing Decisions: Dynamic Causal Models in Laypersons and Legal Experts," *Cerebral Cortex*, bhab484, <https://doi.org/10.1093/cercor/bhab484> (Jan. 18, 2022).

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計71件（うち査読付論文 49件 / うち国際共著 26件 / うちオープンアクセス 19件）

1. 著者名 太田勝造	4. 巻 96.6
2. 論文標題 裁判管轄合意・仲裁地合意の『地の利』評価が示唆するAI支援システムに対する人々の態度	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 法律論叢（明治大学）	6. 最初と最後の頁 47-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田勝造，青木玲子，西内康人，村松幹二，柳川範之	4. 巻 209
2. 論文標題 法と経済学の現在：定着と発展	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 法の支配	6. 最初と最後の頁 6-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森下哲朗，安達祐介，太田勝造，小町谷育子，山本和彦	4. 巻 1579
2. 論文標題 新技術と法の未来：司法と法務のデジタル化	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ジュリスト	6. 最初と最後の頁 60-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田勝造	4. 巻 236
2. 論文標題 AI時代の法学	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 罪と罰	6. 最初と最後の頁 50-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 SAITO, Hiroharu	4. 巻 69
2. 論文標題 Loss Aversion for the Value of Voting Rights: WTA/WTP Ratios for a Ballot	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Review of Law and Economics	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH	4. 巻 46
2. 論文標題 Toward a practical legal rule revision in legal debugging	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Computer Law & Security Review	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.clsr.2022.105696	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae	4. 巻 362
2. 論文標題 Fundamental Revisions on Constraint Hierarchies for Ethical Norms	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Artificial Intelligence and Applications	6. 最初と最後の頁 182-187
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/FAIA220464	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 MGIYEN, Ha-Thanh, Wachara FUNGWACHARAKORN, NISHINO, Fumihito, SATOH, Ken	4. 巻 362
2. 論文標題 A Multi-Step Approach in Translating Natural Language into Logical Formula	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Artificial Intelligence and Applications	6. 最初と最後の頁 103-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/FAIA220453	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 米村滋人	4. 巻 92
2. 論文標題 感染症対策の不備と専門家の活用の失敗：日本のコロナ対策はなぜ欠陥だらけなのか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 208-213
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人	4. 巻 109
2. 論文標題 新型コロナウイルス感染症に関する法制度	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 診断と治療	6. 最初と最後の頁 1487-1492
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人	4. 巻 1559
2. 論文標題 ゲノムデータの法規制に関する現状と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ジュリスト	6. 最初と最後の頁 35-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人	4. 巻 32
2. 論文標題 科学的判断と社会的意思決定：「行動変容」を求めたのは誰か	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 憲法問題	6. 最初と最後の頁 117-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人	4. 巻 39
2. 論文標題 法的・倫理的規制の全体構造と個人情報保護	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 実験医学	6. 最初と最後の頁 1174-1178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken	4. 巻 29
2. 論文標題 Resolving counterintuitive consequences in law using legal debugging	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Artificial Intelligence and Law	6. 最初と最後の頁 541-557
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10506-021-09283-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken	4. 巻 2021
2. 論文標題 On semantics-based minimal revision for legal reasoning	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Proceedings of the Eighteenth International Conference on Artificial Intelligence and Law	6. 最初と最後の頁 50-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1145/3462757.3466075	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken	4. 巻 40
2. 論文標題 Diagnosing and Treating Effect of Legal Rule-Based Revision	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Home New Generation Computing	6. 最初と最後の頁 25-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00354-022-00157-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する



1. 著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken	4. 巻 1357
2. 論文標題 On the Legal Revision in PROLEG Program	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Advances in Intelligent Systems and Computing	6. 最初と最後の頁 25-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-3-030-73113-7_3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 太田勝造	4. 巻 807
2. 論文標題 法解釈学の思考様式：リーガル・マインドを身につけよう！	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 法学セミナー	6. 最初と最後の頁 33-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田勝造	4. 巻 95
2. 論文標題 裁判管轄合意・仲裁地合意の『地の利』評価が示唆するAI支援システムに対する人々の態度	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 法律論叢	6. 最初と最後の頁 47-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田勝造, 新田克己	4. 巻 97
2. 論文標題 AIの裁判への導入は『期待』と『不安』と：人工知能(AI)活用の現状と課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 NII Today	6. 最初と最後の頁 7-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森下哲朗, 安達祐介, 太田勝造, 小町谷育子, 山本和彦	4. 巻 1579
2. 論文標題 新技術と法の未来: 司法と法務のデジタル化	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ジュリスト	6. 最初と最後の頁 60-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田勝造	4. 巻 236
2. 論文標題 AI時代の法学	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 罪と罰	6. 最初と最後の頁 50-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 SAITO, Hiroharu	4. 巻 106041
2. 論文標題 Loss Aversion for the Value of Voting Rights: WTA/WTP Ratios for a Ballot	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Review of Law and Economics	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH	4. 巻 46
2. 論文標題 Toward a practical legal rule revision in legal debugging	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Computer Law & Security Review	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.clsr.2022.105696	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Wachara FUNGWACHARAKORN, Ken SATOH, TSUSHIMA, Kanae	4. 巻 362
2. 論文標題 Fundamental Revisions on Constraint Hierarchies for Ethical Norms	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Artificial Intelligence and Applications	6. 最初と最後の頁 182-187
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/FAIA220464	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 MGIYEN, Ha-Thanh, Wachara FUNGWACHARAKORN, NISHINO, Fumihito, SATOH, Ken	4. 巻 362
2. 論文標題 A Multi-Step Approach in Translating Natural Language into Logical Formula	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Artificial Intelligence and Applications	6. 最初と最後の頁 103-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/FAIA220453	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 ASAMIZUYA, Takeshi, SAITO, Hiroharu, HIGUCHI, Ryosuke, NARUSE, Go, OTA, Shozo, & KATO, Junko	4. 巻 32
2. 論文標題 Effective Connectivity and Criminal Sentencing Decisions: Dynamic Causal Models in Laypersons and Legal Experts	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Cerebral Cortex	6. 最初と最後の頁 4304-4316
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/cercor/bhab484	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 松村良之, 木下麻奈子, 太田勝造	4. 巻 72
2. 論文標題 裁判員裁判と法の素朴理論: 2020年調査に基づいて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 北大法学論集	6. 最初と最後の頁 563-608
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 SAITO, Hiroharu	4. 巻 69
2. 論文標題 Loss Aversion for the Value of Voting Rights: WTA/WTP Ratios for a Ballot	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Review of Law and Economics	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken	4. 巻 29
2. 論文標題 Resolving counterintuitive consequences in law using legal debugging	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Artificial Intelligence and Law	6. 最初と最後の頁 541-557
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10506-021-09283-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken	4. 巻 2021
2. 論文標題 On semantics-based minimal revision for legal reasoning	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Proceedings of the Eighteenth International Conference on Artificial Intelligence and Law	6. 最初と最後の頁 50-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1145/3462757.3466075	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken	4. 巻 1357
2. 論文標題 On the Legal Revision in PROLEG Program	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Advances in Intelligent Systems and Computing	6. 最初と最後の頁 25-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-3-030-73113-7_3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 FUNGWACHARARAKORN, Wachara, TSUSHIMA, Kanae, & SATOH, Ken	4. 巻 40
2. 論文標題 Diagnosing and Treating Effect of Legal Rule-Based Revision	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Home New Generation Computing	6. 最初と最後の頁 25-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00354-022-00157-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 米村滋人	4. 巻 92
2. 論文標題 感染症対策の不備と専門家の活用の失敗 : 日本のコロナ対策はなぜ欠陥だらけなのか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 208-213
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人	4. 巻 109
2. 論文標題 新型コロナウイルス感染症に関する法制度 (特集 新型コロナウイルス感染症 理解と対策の現状)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 診断と治療	6. 最初と最後の頁 1487-1492
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人	4. 巻 1559
2. 論文標題 ゲノムデータの法規制に関する現状と課題 (特集 ゲノムデータの利活用と法の未来)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ジュリスト	6. 最初と最後の頁 35-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人	4. 巻 32
2. 論文標題 科学的判断と社会的意思決定：「行動変容」を求めたのは誰か (特集 コロナと憲法)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 憲法問題	6. 最初と最後の頁 117-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人	4. 巻 39
2. 論文標題 法的・倫理的規制の全体構造と個人情報保護	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 実験医学	6. 最初と最後の頁 1174-1178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ASAMIZUYA, Takeshi, SAITO, Hiroharu, HIGUCHI, Ryosuke, NARUSE, Go, OTA, Shozo, & KATO, Junko	4. 巻 bhab484
2. 論文標題 Effective Connectivity and Criminal Sentencing Decisions: Dynamic Causal Models in Laypersons and Legal Experts	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Cerebral Cortex	6. 最初と最後の頁 1-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/cercor/bhab484	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 太田勝造	4. 巻 1199
2. 論文標題 相手方企業の組織内弁護士であった者を入所させた法律事務所の弁護士の訴訟行為を排除することの可否	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 NBL	6. 最初と最後の頁 60,65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田勝造, 松村良之, 木下麻奈子	4. 巻 72
2. 論文標題 裁判員裁判と法の素朴理論: 2020年調査に基づいて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 北大法学論集	6. 最初と最後の頁 563, 608
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田勝造	4. 巻 807
2. 論文標題 法解釈学の思考様式: リーガル・マインドを身につけよう!	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 法学セミナー	6. 最初と最後の頁 33, 38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田勝造	4. 巻 1
2. 論文標題 司法書士の社会的使命: 問題解決エキスパート	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 司法書士法改正記念誌	6. 最初と最後の頁 39, 52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅水屋剛	4. 巻 87
2. 論文標題 法的問題の神経科学	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 法社会学	6. 最初と最後の頁 28, 39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤淳子	4. 巻 87
2. 論文標題 社会的行動の脳神経科学基盤の解明における人文社会科学	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 法社会学	6. 最初と最後の頁 40, 51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田勝造	4. 巻 1
2. 論文標題 社会規範のインフォーマルな制裁の効果についての人々の評価	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 柏木他『日本とブラジルからみた比較法』	6. 最初と最後の頁 207, 235
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田勝造	4. 巻 92-1
2. 論文標題 基礎法研究者からみた「法と法学のエッセンス」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 法律時報	6. 最初と最後の頁 16, 21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田勝造	4. 巻 92-4/5
2. 論文標題 「被告人が犯人でないとしたならば合理的に説明することが極めて困難な間接事実」について：事実認定・心証形成の合理的理論からの一考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 法律論叢 (明治大学)	6. 最初と最後の頁 37, 63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 太田勝造	4. 巻 72
2. 論文標題 交渉重視の調停：私的自治と取引費用	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東調連会報	6. 最初と最後の頁 32, 49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森大輔	4. 巻 148
2. 論文標題 日本の死刑の抑止効果 3つの先行研究の計量分析の再検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 熊本法学	6. 最初と最後の頁 416, 344
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森大輔, 高橋脩一	4. 巻 5
2. 論文標題 広告の打消し表示において文字の大きさはどれほど重要か? インターネットでのサーベイ実験による検証	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 法と社会研究	6. 最初と最後の頁 67, 93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤健, Vu D. Tran, Minh Le Nguyen	4. 巻 2019
2. 論文標題 Building Legal Case Retrieval Systems with Lexical Matching and Summarization using A Pre-Trained Phrase Scoring Model	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of International Conference on Artificial Intelligence and Law	6. 最初と最後の頁 275, 282
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 佐藤健, Vu D. Tran, Minh Le Nguyen, Kiyooki Shirai	4. 巻 2019
2. 論文標題 An Approach of Rhetorical Status Recognition for Judgments in Court Documents using Deep Learning Models	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of International Conference on Knowledge and Systems Engineering	6. 最初と最後の頁 1, 6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 藤田和也・岡田謙介	4. 巻 46
2. 論文標題 主観確率を含んだ累積プロスペクト理論モデルの推定精度について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 行動計量学	6. 最初と最後の頁 53,71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人	4. 巻 1
2. 論文標題 第1章 医療情報と医事法の関わり	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 甲斐克則編『医事法講座9巻 医療情報と医事法』	6. 最初と最後の頁 3, 22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人	4. 巻 29
2. 論文標題 ゲノム医学・医療の進展に向けた法的課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 遺伝子医学	6. 最初と最後の頁 153, 159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人	4. 巻 34
2. 論文標題 医療情報に関する法制度上の課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 年報医事法学	6. 最初と最後の頁 117, 126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 米村滋人	4. 巻 83.4
2. 論文標題 医療行為に対する「同意」と親権 医療ネグレクトにおける法的対応を契機に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 法学 (東北大学)	6. 最初と最後の頁 149, 185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田勝造	4. 巻 14号
2. 論文標題 認知症高齢者への介護行動と法的判断：要介護者の遺族の評価と態度への影響	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 法と実務	6. 最初と最後の頁 243-286
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Imai, Kosuke, and Zhichao Jiang	4. 巻 37巻20号
2. 論文標題 A Sensitivity Analysis for Missing Outcomes Due to Truncation-by-Death under the Matched-Pairs Design	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Statistics in Medicine	6. 最初と最後の頁 2907-2922
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/sim.2995	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Fong, Christian, Chad Hazlett, and Kosuke Imai	4. 巻 Vol.12, No.1
2. 論文標題 Covariate Balancing Propensity Score for a Continuous Treatment: Application to the Efficacy of Political Advertisements	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Annals of Applied Statistics	6. 最初と最後の頁 156-177
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Fungwacharakorn, W., and Satoh, K.	4. 巻 2018
2. 論文標題 On the Legal Debugging in PROLEG program", Proceedings of the 12th International Workshop on Juris-Informatics	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 JURISIN	6. 最初と最後の頁 4-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 avas-Loro, M., Satoh, K., and Rodriguez-Doncel, V.	4. 巻 2018
2. 論文標題 ContractFrames: Bridging the gap between Natural Language and Logics in Contract Law	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings of the 12th International Workshop on Juris-Informatics	6. 最初と最後の頁 71-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroharu Saito	4. 巻 No.20
2. 論文標題 Japanese Divorce Lawyers: Their Success After Their Own Divorce	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Asian-Pacific Law & Policy Journal	6. 最初と最後の頁 1-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 齋藤宙治	4. 巻 8号
2. 論文標題 米国における対立解決教育の歴史的展開：第二期（変容期）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 法と教育	6. 最初と最後の頁 5-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田謙介	4. 巻 61号
2. 論文標題 ベイズファクターによる心理学的仮説・モデルの評価	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 心理学評論	6. 最初と最後の頁 101-115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24602/sjpr.61.1_101	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 三浦麻子・岡田謙介・清水裕士	4. 巻 61号
2. 論文標題 統計革命：Make statistics great again 特集号の刊行にあたって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 心理学評論	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24602/sjpr.61.1_1	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Daisuke Mori, Yasuhiro Ikeda	4. 巻 26(1)
2. 論文標題 The Effect of Decoupling Punitive Damages on Filing Lawsuits: Court Error Model of Meritless Lawsuits	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Supreme Court Economic Review	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 森大輔	4. 巻 141
2. 論文標題 質的比較分析(QCA)のソフトの使用法 fs/QCAとRのQCA・SetMethods/パッケージ(2)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 熊本法学	6. 最初と最後の頁 388-348
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森大輔	4. 巻 458
2. 論文標題 法と経済学のススメ 法の「意図せざる効果」の理論と実証	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 法学教室	6. 最初と最後の頁 4-7
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森大輔	4. 巻 144
2. 論文標題 震災後の流言の伝播 「善意」と新しい情報媒体の影響の統計分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 熊本法学	6. 最初と最後の頁 354-292
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計142件(うち招待講演 51件/うち国際学会 51件)

1. 発表者名 加藤淳子
2. 発表標題 情動と決定 社会的行動の神経基盤の分析から
3. 学会等名 情報情動学シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 森大輔・村山真維
2. 発表標題 Structural Changes of the Legal Profession and Diversification of Legal Practice for Individual Clients in Japan: From Professionalism to Consumerism
3. 学会等名 法専門職国際シンポジウム(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 OTA, Shozo
2. 発表標題 AI Assisted Court System: Structure and People's Attitude
3. 学会等名 Asian Law & Society Association(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 弁護士に対する基本イメージ
3. 学会等名 日本法社会学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 AI-Assisted Court: Architecture and People's Attitude
3. 学会等名 Meiji University Law in Japan Program(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 OTA, Shozo
2. 発表標題 How AI Should Assist Courts?: Fact-Finding, Legal Judgment, or Both?
3. 学会等名 Global Meeting on Sociology of Law (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 KATO, Junko, HIGUCHI, Ryosuke, NARUSE, Go, SAITO, Hiroharu, ASAMIZUYA, Takeshi, OTA, Shozo
2. 発表標題 Emotion and Reason in Sentencing Decision: A Neuroscientific Exploration of the Legal Mind
3. 学会等名 Asian Law Institute Meeting (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 学際化の進む法と経済学
3. 学会等名 日本法と経済学会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 リーガル・マインドと模擬裁判員裁判
3. 学会等名 法と言語学会研究集会 (招待講演)
4. 発表年 2022年



1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 裁判員制度シンポジウム：18歳で裁判員!?
3. 学会等名 専修大学法学研究所・裁判員経験者ネットワーク（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 民事紛争処理における 事実と証拠について
3. 学会等名 民事紛争処理研究基金シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 リーガル・マインドと法教育：要件事実教育のその先
3. 学会等名 PSIMコンソーシウム・法実務技能教育支援セミナー（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 加藤淳子
2. 発表標題 リーガル・マインドの脳神経科学的探究
3. 学会等名 日本法社会学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 ASAMIZUYA, Takeshi
2. 発表標題 Brain-Scientific Approach to the Legal Mind: In the Case of Criminal Sentencing
3. 学会等名 Asian Law and Society Association (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 浅水屋剛
2. 発表標題 リスク下の決定におけるヒト脳の機能的連結 (Functional connectivity of human brain in risk decisions)
3. 学会等名 ヒト脳イメージング研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 ASAMIZUYA, Takeshi
2. 発表標題 Functional connectivity of human risk decisions: Cognitive control and systematic deviation from risk neutrality
3. 学会等名 euroscience2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 森大輔
2. 発表標題 弁護士選択を左右する情報
3. 学会等名 日本法社会学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 森大輔
2. 発表標題 転売に対する規範的態度についてのサーベイ実験
3. 学会等名 日本法社会学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 SAITO, Hiroharu
2. 発表標題 Japanese Lawyers at Civil Court after the Expansion of Their Population
3. 学会等名 Asian Law and Society Association (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 齋藤宙治
2. 発表標題 オンライン実験ツールの使用感について
3. 学会等名 さまざまな実験手法を用いた不正や犯罪の研究ワークショップ
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 裁判支援A Iシステムへの国民の受容可能性事実認定・法的当てはめ・判断支援
3. 学会等名 人工知能学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 認知脳科学の成果は法実務を変える：マインドセットを裁判官型から解放そう
3. 学会等名 第二東京弁護士会仲裁センター（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 SAITO, Hiroharu
2. 発表標題 The Impact of Lawyer Fees on Lawyer Partisanship: The Reciprocity Norm May Matter
3. 学会等名 Law & Society Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 齋藤宙治
2. 発表標題 選挙権の価値についての損失回避：1票のWTA/WTP
3. 学会等名 日本法と経済学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 米村滋人
2. 発表標題 専門的判断の法的ガバナンス
3. 学会等名 科学技術社会論学会（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 森大輔
2. 発表標題 裁判にかかる費用や時間についての認識と裁判利用行動意図の関係 裁判未経験者と経験者の比較
3. 学会等名 日本法社会学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 米村滋人
2. 発表標題 人格権とパブリシティ権の法的性質 民法の立場から
3. 学会等名 著作権法学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 米村滋人
2. 発表標題 プライバシー・個人情報保護規制と医療情報の利用
3. 学会等名 日本看護倫理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 野村友和, 森大輔, 武田芳樹
2. 発表標題 日本の犯罪の増減に影響を与える要因 窃盗の都道府県パネルデータ分析を中心に
3. 学会等名 日本法と経済学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 法的支援システムに基づく裁判は人々に受け容れられるか？
3. 学会等名 日本法社会学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 OTA, Shozo
2. 発表標題 AI-Assisted Court and Fact-Finding : People's Expectation and Concern
3. 学会等名 Law and Society Association ( 国際学会 )
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 OTA, Shozo
2. 発表標題 AI Assisted Court System: Structure and People's Attitude
3. 学会等名 Asian Law & Society Association ( 国際学会 )
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 弁護士に対する基本イメージ
3. 学会等名 日本法社会学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 AI-Assisted Court: Architecture and People's Attitude
3. 学会等名 Meiji University Law in Japan Program (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 OTA, Shozo
2. 発表標題 How AI Should Assist Courts?: Fact-Finding, Legal Judgment, or Both?
3. 学会等名 Global Meeting on Sociology of Law (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 KATO, Junko, HIGUCHI, Ryosuke, NARUSE, Go, SAITO, Hiroharu, ASAMIZUYA, Takeshi, OTA, Shozo
2. 発表標題 Emotion and Reason in Sentencing Decision: A Neuroscientific Exploration of the Legal Mind
3. 学会等名 Asian Law Institute Meeting (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 学際化の進む法と経済学
3. 学会等名 日本法と経済学会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 リーガル・マインドと 模擬裁判員裁判
3. 学会等名 法と言語学会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 裁判員制度シンポジウム：18歳で裁判員!?
3. 学会等名 専修大学法学研究所・裁判員経験者ネットワーク（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 民事紛争処理における 事実と証拠について
3. 学会等名 民事紛争処理研究基金シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 リーガル・マインドと法教育：要件事実教育のその先
3. 学会等名 PSIMコンソーシウム・法実務技能教育支援セミナー（招待講演）
4. 発表年 2022年



1. 発表者名 加藤淳子
2. 発表標題 リーガル・マインドの脳神経科学的探究
3. 学会等名 日本法社会学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 加藤淳子
2. 発表標題 情動と決定 社会的行動の神経基盤の分析から
3. 学会等名 情報情動学シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 ASAMIZUYA, Takeshi
2. 発表標題 Brain-Scientific Approach to the Legal Mind: In the Case of Criminal Sentencing
3. 学会等名 Asian Law and Society Association (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 浅水屋剛
2. 発表標題 リスク下の決定におけるヒト脳の機能的連結 (Functional connectivity of human brain in risk decisions)
3. 学会等名 ヒト脳イメージング研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 ASAMIZUYA, Takeshi
2. 発表標題 Functional connectivity of human risk decisions: Cognitive control and systematic deviation from risk neutrality
3. 学会等名 Neuroscience2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 森大輔・村山眞維
2. 発表標題 Structural Changes of the Legal Profession and Diversification of Legal Practice for Individual Clients in Japan: From Professionalism to Consumerism
3. 学会等名 法専門職国際シンポジウム (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 森大輔
2. 発表標題 弁護士選択を左右する情報
3. 学会等名 日本法社会学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 森大輔
2. 発表標題 転売に対する規範的態度についてのサーベイ実験
3. 学会等名 日本法社会学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 森大輔
2. 発表標題 マスク着用や飲食店の新型コロナ対策に対する人々の意識調査
3. 学会等名 実践社会科学研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 SAITO, Hiroharu
2. 発表標題 Japanese Lawyers at Civil Court after the Expansion of Their Population
3. 学会等名 Asian Law and Society Association (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 齋藤宙治
2. 発表標題 オンライン実験ツールの使用感について
3. 学会等名 さまざまな実験手法を用いた不正や犯罪の研究ワークショップ
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 OTA, Shozo
2. 発表標題 Current Trends and Challenges in the Study of Law and Society in Japan
3. 学会等名 Asian Law & Society Association (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 研究の国際化の意義・方法・課題
3. 学会等名 日本法社会学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 リーガル・マインドの脳科学
3. 学会等名 日本法社会学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 OTA, Shozo
2. 発表標題 People's Attitude toward AI Court: How and To What Extent Should AI Assist the Judges?
3. 学会等名 Law and Society Association
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 OTA, Shozo
2. 発表標題 Case Settlement by Judicial Mediation From Law and Behavioral Economics Perspectives
3. 学会等名 Mongolian Law and Economics Association（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 OTA, Shozo
2. 発表標題 Scientific Methods for Legal Studies: Brain Science, Cognitive Science, and Field Experiment
3. 学会等名 Asian Law and Economics Association (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 裁判支援AIシステムへの国民の受容可能性事実認定・法的当てはめ・判断支援
3. 学会等名 人工知能学会全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 認知脳科学の成果は法実務を変える：マインドセットを裁判官型から解放そう
3. 学会等名 第二東京弁護士会仲裁センター (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 『AI裁判』に対する人々の受け止め方：経験科学的な法社会学研究の試み
3. 学会等名 明治大学法学研究会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 齋藤宙治
2. 発表標題 日米の司法判断から見るEBPM
3. 学会等名 日本公共政策学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 SAITO, Hiroharu
2. 発表標題 The Impact of Lawyer Fees on Lawyer Partisanship: The Reciprocity Norm May Matter
3. 学会等名 Law and Society Association
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 米村滋人
2. 発表標題 人格権とパブリシティ権の法的性質 民法の立場から
3. 学会等名 著作権法学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 米村滋人
2. 発表標題 プライバシー・個人情報保護規制と医療情報の利用
3. 学会等名 日本看護倫理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 米村滋人
2. 発表標題 ゲノム社会の未来を実現するための法的・倫理的課題とは
3. 学会等名 生命医薬情報学連合大会・日本バイオインフォマティクス学会・日本オミックス医学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 米村滋人
2. 発表標題 専門的判断の法的ガバナンス
3. 学会等名 科学技術社会論学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 野村友和, 森大輔, 武田芳樹
2. 発表標題 日本の犯罪の増減に影響を与える要因 窃盗の都道府県パネルデータ分析を中心に
3. 学会等名 日本法と経済学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 森大輔
2. 発表標題 裁判にかかる費用や時間についての認識と裁判利用行動意図の関係 裁判未経験者と経験者の比較
3. 学会等名 日本法社会学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 OTA, Shozo
2. 発表標題 Scientific Methods for Legal Studies: Brain Science, Cognitive Science, and Field Experiment
3. 学会等名 Asian Law and Economics Association (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 OTA, Shozo
2. 発表標題 Current Trends and Challenges in the Study of Law and Society in Japan
3. 学会等名 Asian Law and Society Association (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 研究の国際化の意義・方法・課題
3. 学会等名 日本法社会学会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 認知脳科学と法実務
3. 学会等名 日本法社会学会
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 OTA, Shozo
2. 発表標題 People's Attitude toward AI Court: How and To What Extent Should AI Assist the Judges?
3. 学会等名 Law and Society Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 『A I 裁判』に対する人々の受け止め方：経験科学的な法社会学研究の試み
3. 学会等名 明治大学法学研究会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 OTA, Shozo
2. 発表標題 Case Settlement by Judicial Mediation: From Law and Behavioral Economics Perspectives
3. 学会等名 Mongolian Law and Economics Association (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 浅水屋剛・太田勝造
2. 発表標題 リーガルマインドの脳神経科学：法的判断と感情
3. 学会等名 法社会学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 A I に対する人々の期待と不安：自動運転車とAI裁判所
3. 学会等名 東京大学法学部基礎法学研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 訴訟利用調査の概要と基本集計
3. 学会等名 日本法社会学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 法的支援システムに基づく裁判は人々に受け容れられるか？
3. 学会等名 日本法社会学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 モンゴルの土地私有制度の創設
3. 学会等名 東京大学法科大学院法整備支援連続講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田勝造, 浅水屋剛
2. 発表標題 Brain-Science of `Legal Mind': MRI Experiments Comparing the Brain Activities of Legal Professionals and Lay Persons
3. 学会等名 Law & Society Association Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 A I 裁判支援システムへの人々の期待と受容: People's Expectation and Attitude toward AI-assisted Courts
3. 学会等名 人工知能学会年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 Overview of Civil Litigation Research Project
3. 学会等名 Annual Meeting of Research Committee on Sociology of Law (RCSL) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 People's Attitudes Toward AI-Court Comparing Self-driving Car and AI-Court
3. 学会等名 Seminar for Thai Judges on Law & Technology at Meiji University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 交渉重視の調停：私的自治と取引費用
3. 学会等名 東京地方裁判所民事調停協会連合会研修（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 弁護士としての交渉のあり方
3. 学会等名 日本弁護士連合会研修（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 政策科学としての法学：Evidence-Based Law
3. 学会等名 Law未来の会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 AIとリーガル・マインド：Beyond Reasonable Doubt & People's Attitude
3. 学会等名 国立情報学研究所シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 知的財産権の法と行動経済学
3. 学会等名 著作権情報センターセミナー（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 法・経済・人間・社会：文理融合研究分野としての法
3. 学会等名 政策投資銀行役員会研修（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 The Intercollegiate Negotiation Competition and The International Negotiation Competition
3. 学会等名 JURISIN 2019 at NII (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 AI Judges or Human Judges: People's Attitude toward A.I.
3. 学会等名 Asian Law & Society Association Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田勝造, 浅水屋剛, 齋藤宙治, 樋口亮介, 成瀬剛, 加藤淳子
2. 発表標題 Emotion and Reason in Legal Judgments: Brain Science on Legal Mind
3. 学会等名 Asian Law & Society Association Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 A I に対する人々の期待と不安: A I 裁判所
3. 学会等名 中国裁判官ワークショップ (国立情報学研究所) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 交渉による合意に基づく紛争解決
3. 学会等名 東京弁護士会研修 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 司法書士の社会的使命: 問題解決エキスパート
3. 学会等名 司法書士法改正記念講演会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 浅水屋剛
2. 発表標題 法律家と非法律家が法的判断をする際の脳科学的構造の異同: fMRI (機能的磁気共鳴画像法)を用いたリーガル・マインドの探求
3. 学会等名 日本法社会学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浅水屋剛
2. 発表標題 A Brain-Science of "Legal Mind": MRI Experiments Comparing the Brain Activities of Legal Professionals and Lay Persons
3. 学会等名 Research Committee for Sociology of Law Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浅水屋剛
2. 発表標題 法的判断の神経相関: 法的専門知識と法秩序に対する信頼は差を生むか?
3. 学会等名 日本神経科学大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浅水屋剛
2. 発表標題 法的判断の神経相関
3. 学会等名 ヒト脳イメージング研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浅水屋剛
2. 発表標題 The neural correlate of legal judgment: Do legal expertise and a trust in the law make a difference ?
3. 学会等名 Neuroscience 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浅水屋剛
2. 発表標題 法的判断の神経基盤を探る
3. 学会等名 CiShuB公開講義
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森大輔, 高橋脩一, 飯田高
2. 発表標題 広告の打消し表示において文字の大きさや配置はどれほど 重要か? サーベイ実験
3. 学会等名 法と経済学会全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森大輔
2. 発表標題 懲罰的賠償と利益吐き出し: 消費者詐欺の事例によるサーベイ実験
3. 学会等名 日本応用経済学会秋季大会
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 森大輔
2. 発表標題 日本における死刑の抑止効果：政府統計データを用いた計量分析
3. 学会等名 日本応用経済学会秋季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森大輔
2. 発表標題 一般人調査と訴訟利用者スクリーニング調査の分析（ミニシンポジウム 「超 高齢社会の紛争経験と司法政策プロジェクト：調査の実施経過および結果の概要」）
3. 学会等名 日本法社会学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森大輔，池田康弘
2. 発表標題 Rent-Seeking Model of Litigation and Punitive Damages Multiplier, 6th Economic Analysis of Litigation Workshop
3. 学会等名 Campus Universitario de La Cartuja, Granada, Spain (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡田謙介
2. 発表標題 因果効果を評価するための研究デザインと統計分析，オープンサイエンス
3. 学会等名 日本教育心理学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡田謙介
2. 発表標題 異質性に取り組む数理・計量心理学のベイズ統計的アプローチ
3. 学会等名 日本行動軽量学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤田和也・岡田謙介
2. 発表標題 モデル選択の観点からの適応的な実験刺激選択法
3. 学会等名 日本計算機統計学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤田和也・岡田謙介
2. 発表標題 認知モデリングにおける実験刺激の選択について –モデル選択とパラメータの推定精度の観点から–
3. 学会等名 日本行動計量学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤田和也・岡田謙介
2. 発表標題 Adaptive task selection in decision-making tasks under uncertainty for the measurement of subjective probability
3. 学会等名 Annual Meeting of the Society for Mathematical Psychology (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤淳子
2. 発表標題 リーガルマインドの政治学：感情と法的判断
3. 学会等名 中央大学感性工学・認知科学クラスターシンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤淳子
2. 発表標題 Neural Correlate of Legal Judgment with and without Expertise
3. 学会等名 oint Research Workshop on Experimental Social Sciences (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤淳子
2. 発表標題 社会における人間の行動を理解するとは？
3. 学会等名 東京大学こころの多様性と適応の統合的研究機構 平成30年度公開シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤淳子, 高橋愛
2. 発表標題 福祉国家の再分配の平等をめぐるfMRI実験
3. 学会等名 第22回実験社会科学カンファレンス
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 交渉の理論と技術
3. 学会等名 日本弁護士連合会ライブ研修会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 Preliminary Report on the Civil Litigation Research Project: An Empirical Study on the Attitude and Behavior of Civil Litigants and Their Lawyers in Japan
3. 学会等名 Law & Society Association Annual Meeting（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浅水屋剛，加藤淳子，太田勝造，樋口亮介，成瀬剛，高橋愛，齋藤宙治
2. 発表標題 The Neural Correlate of Legal Judgment: MRI Experiment on the Legal Mind
3. 学会等名 日本神経科学大会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浅水屋剛，太田勝造，加藤淳子
2. 発表標題 The Neuro-cognitive Structure of Lay Perception and Judgments on Legal Problems: Standard of Proof and Defendant's Repentance in Criminal Procedure
3. 学会等名 RCSL Lisbon Meeting（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 太田勝造, 佐藤岩夫, 阿部昌樹
2. 発表標題 Disputing Behavior and Judicial Policy in the Super-Aging Society: Backgrounds and Research Design of the Civil Justice Research Project in Japan
3. 学会等名 RCSL Lisbon Meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 太田勝造, 飯考行
2. 発表標題 Survey of Civil Litigants and Their Lawyers 2018: Its Outline and Early Findings
3. 学会等名 RCSL Lisbon Meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 法学者からのA I技術導入についての期待
3. 学会等名 日本学術会議高階シンポジウム (A Iによる法学へのアプローチ) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田勝造
2. 発表標題 People's Attitudes toward A.I.: Self-driving Car and A.I. Court
3. 学会等名 Legal Data Mining Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1 . 発表者名 Bunji, K., & Okada, K.
2 . 発表標題 Extending the diffusion-IRT model to forced-choice response time data
3 . 学会等名 IMPS 2018: the 83rd Annual Meeting of the Psychometric Society ( 国際学会 )
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Okada, K., Hojo, D., & Takahashi, Y.
2 . 発表標題 Bayesian item response mixture model for evaluating the stability of response style
3 . 学会等名 MathPsych/ICCM 2018: the 51st Society for Mathematical Psychology & 16th International Conference on Cognitive Modelling Meetings ( 国際学会 )
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Bunji, K., & Okada, K.
2 . 発表標題 Modeling forced-choice version of questionnaires on the big five factors for reducing response biases
3 . 学会等名 MathPsych/ICCM 2018: the 51st Society for Mathematical Psychology & 16th International Conference on Cognitive Modelling Meetings ( 国際学会 )
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Hojo, D., & Okada, K.
2 . 発表標題 Classification and individual differences of response style using anchoring vignettes
3 . 学会等名 MathPsych/ICCM 2018: the 51st Society for Mathematical Psychology & 16th International Conference on Cognitive Modelling Meetings ( 国際学会 )
4 . 発表年 2018年

1. 発表者名 岡田謙介
2. 発表標題 ベイズ統計学の考え化と方法
3. 学会等名 日本認知心理学会第16回大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤田和也, 岡田謙介
2. 発表標題 主観確率の測定法の改善について：思考状態に着目して
3. 学会等名 日本行動計量学会第46回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡田謙介
2. 発表標題 心理学における再現性の問題と「社会的ジレンマ」の解決へ向けて
3. 学会等名 日本教育心理学会大会第60回総会 準備委員会企画チュートリアルセミナー（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡田健介
2. 発表標題 心理学におけるベイズ統計的方法の活用
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会 大会準備委員会企画シンポジウム「ベイズ理論の展開」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤田和也, 岡田謙介
2. 発表標題 不確実状況における累積プロスペクト理論
3. 学会等名 日本計算機統計学会第32回シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡田謙介
2. 発表標題 教育工学研究におけるベイズ統計の応用, RとRStudioを使ったベイズ統計の演習
3. 学会等名 日本教育工学会 2018年度冬の合宿研究会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡田謙介
2. 発表標題 再現性問題における統計学的論点とその解決に向けて
3. 学会等名 日本発達心理学会・他学会等共催シンポジウム「今そこにある危機：再現可能性問題をめぐる現状と展望」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Daisuke Mori, Shuichi Takahashi, Yasuhiro Ikeda
2. 発表標題 Comparative survey about people's perception of damages in Japan and the U.S.
3. 学会等名 The Inaugural Congress of East Asian Sociological Association (国際学会)
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 森大輔
2. 発表標題 横断的な回答比較 (ミニシンポジウム(1) : 法的ニーズについて 法曹人口調査データの二次分析)
3. 学会等名 司法アクセス学会第12回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Daisuke Mori
2. 発表標題 How are Japanese people seeing the aging society as legal issues?: Findings from Internet Survey of General Public Regarding Civil Litigation 2018
3. 学会等名 RCSL Lisbon Meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森大輔
2. 発表標題 損害賠償の目的に関する日米比較調査の結果報告
3. 学会等名 第16回法と経済学会全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森大輔
2. 発表標題 アンケート調査の変数間の必要条件分析 ファジィ集合質的比較分析による統計分析
3. 学会等名 第66回数理社会学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森大輔
2. 発表標題 二次分析、構造方程式モデリング その基本
3. 学会等名 日本法社会学会2018年度学術大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計22件

1. 著者名 佐藤岩夫, 阿部昌樹, 太田勝造編著	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 731
3. 書名 現代日本の紛争過程と司法政策	

1. 著者名 佐藤岩夫, 阿部昌樹編著 (森大輔分担執筆)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 北王子書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 スタンダード法社会学 (森大輔, 「法社会学における『方法』」)	

1. 著者名 佐藤健, 新田克己, 西貝吉晃, 狩野芳伸, 本村陽一, 高岡昂太, 高橋和子, 太田勝造	4. 発行年 2022年
2. 出版社 近代科学社	5. 総ページ数 194
3. 書名 人工知能と法律	

1. 著者名 熊本大学法学部編（森大輔分担執筆）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 成文堂	5. 総ページ数 347
3. 書名 熊本地震と法・政策	

1. 著者名 沖野眞巳 = 丸山絵美子 = 水野紀子 = 森田宏樹 = 森永淑子編（米村滋人分担執筆）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 信山社	5. 総ページ数 1178
3. 書名 これからの民法・消費者法（ ）（米村「医薬品の欠陥判断と過失判断」）	

1. 著者名 大林啓吾編（森大輔分担執筆）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 青林書院	5. 総ページ数 271
3. 書名 感染症と憲法（森「流言・デマへの対処と表現の自由：法社会学からの分析」）	

1. 著者名 佐藤健，新田克己，西貝吉晃，狩野芳伸，本村陽一，高岡昂太，高橋和子，太田勝造	4. 発行年 2022年
2. 出版社 近代科学社	5. 総ページ数 194
3. 書名 人工知能と法律	

1. 著者名 佐藤岩夫, 阿部昌樹編著 (森大輔分担執筆)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 北王子書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 スタンダード法社会学 (森大輔, 「法社会学における『方法』」)	

1. 著者名 佐藤岩夫, 阿部昌樹, 太田勝造編著 (太田勝造, 森大輔分担執筆)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 731
3. 書名 現代日本の紛争過程と司法政策	

1. 著者名 熊本大学法学部編 (森大輔分担執筆)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 成文堂	5. 総ページ数 347
3. 書名 熊本地震と法・政策	

1. 著者名 沖野眞己 = 丸山絵美子 = 水野紀子 = 森田宏樹 = 森永淑子編 (米村滋人分担執筆)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 信山社	5. 総ページ数 1178
3. 書名 これからの民法・消費者法 ( ) (米村「医薬品の欠陥判断と過失判断」)	

1. 著者名 森大輔	4. 発行年 2021年
2. 出版社 青林書院	5. 総ページ数 36
3. 書名 大林啓吾編『感染症と憲法』（森・「流言・デマへの対処と表現の自由：法社会学からの分析」）	

1. 著者名 ダニエル・ホロウェイ（太田勝造監訳）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 木鐸社	5. 総ページ数 345
3. 書名 法実務と認知脳科学：交渉・説得・弁論	

1. 著者名 太田勝造（編著）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 弘文堂	5. 総ページ数 280
3. 書名 A I時代の法学入門：学際的アプローチ	

1. 著者名 デヨル・リー（加藤淳子監修）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 木鐸社	5. 総ページ数 261
3. 書名 知能の誕生	

1. 著者名 日本弁護士連合会編（太田勝造分担執筆）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 第一法規	5. 総ページ数 784
3. 書名 現代法実務の諸問題	

1. 著者名 太田勝造，ダニエル・H・フット，濱野亮（共編著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 信山社	5. 総ページ数 592
3. 書名 法の経験的社会科学の確立に向けて	

1. 著者名 太田勝造	4. 発行年 2018年
2. 出版社 清水書院	5. 総ページ数 272
3. 書名 法と話し合い：法を中心は交渉である（野村美明，江口勇治，小貫篤，齋藤宙治（共編著）話し合いでつくる中・高 公民の授業：交渉で実現する深い学び（分担執筆））	

1. 著者名 太田勝造，加藤新太郎，大塚直，田高寛貴（共編著）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 信山社	5. 総ページ数 886
3. 書名 21世紀民事法学の挑戦（上）	

1. 著者名 太田勝造, 加藤新太郎, 大塚直, 田高寛貴 (共編著)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 信山社	5. 総ページ数 880
3. 書名 21世紀民事法学の挑戦 (下)	

1. 著者名 太田勝造, 豊田愛祥, 林圭介, 斎藤輝夫 (共編著)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 信山社	5. 総ページ数 552
3. 書名 和解は未来を創る	

1. 著者名 岡田謙介	4. 発行年 2018年
2. 出版社 金子書房	5. 総ページ数 5
3. 書名 発達心理学研究における現代的な統計モデリング (河合優年編 児童心理学の進歩 2018年版 (分担執筆))	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>《マス・メディアでの紹介記事》 『上毛新聞』の特集「脳とこころ：御巢鷹に逝った科学者」(「法的判断に活かせるか」(2022年10月13日(社会面)18頁), 「投票関わる脳活動研究」(10月14日(社会面)20頁), 「AI裁判バイアス減らす」(10月17日(社会面)18頁))</p>
--

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	加藤 淳子 (KATO Junko) (00251314)	東京大学・大学院法学政治学研究科(法学部)・教授  (12601)	
研究分担者	佐藤 健 (SATO Ken) (00271635)	国立情報学研究所・情報学プリンシプル研究系・教授  (62615)	
研究分担者	浅水屋 剛 (ASAMIZUYA Takeshi) (00377920)	東京大学・大学院法学政治学研究科(法学部)・助教  (12601)	
研究分担者	今井 耕介 (IMAI Koduke) (00780032)	東京大学・大学院法学政治学研究科(法学部)・教授  (12601)	
研究分担者	岡田 謙介 (OKADA Kensuke) (20583793)	東京大学・大学院教育学研究科(教育学部)・准教授  (12601)	
研究分担者	齋藤 宙治 (SAITO Hiroharu) (20779392)	東京大学・大学院法学政治学研究科(法学部)・特任講師  (12601)	
研究分担者	米村 滋人 (YONEMURA Shigeto) (40419990)	東京大学・大学院法学政治学研究科(法学部)・教授  (12601)	
研究分担者	森 大輔 (MORI Daisuke) (40436499)	熊本大学・大学院人文科学研究部(法)・准教授  (17401)	



6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	飯田 高  (IIDA Takashi)  (70345247)	東京大学・社会科学研究所・教授     (12601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関